

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	熊本県天草市有明町赤崎1974番地		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中心地にあり、ご近所様との交流も日々行われています。ホーム全体を落ち着ける場とし、ご自宅と同じような寛げる空間を作っています。又、前庭には、無農薬野菜畑が広がっております。野菜を植えたり、収穫したりしていると地域の方々が声をかけて下さったり、お手伝いに来られたりします。地域の方々のご協力も多く、入居者様が安心して暮らせる環境作りを目指しております。入居者様は調理等、掃除、洗濯物干し、たたみなどの生活主体者としての参加、そしてご家族様との交流等にも力を入れています。今まで以上に地域の方々との交流、認知症の事、さざなみの事をご理解いただけるように心がけて頑張っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から入ってすぐの住宅地にある施設で、お向かい・お隣りの民家と同様、周囲に溶け込んでいる。開設当初、代表が地域の全戸を回って施設への理解を求めた経緯があり、近隣から野菜の差し入れや防災訓練への協力が得られる等、地域密着型施設としての役割が定着しているように感じられた。施設長は、市や社協との交流が深くホームを拠点として、社協主催の行事への参加や「地域ネットワーク事業」・国が定めた「民生委員の日」を通して地域の一人暮らし高齢者への支援にも協力している。職員は、利用者一人一人の個性や介護度の違いを把握しており、「ゆっくり」「じっくり」「しっかり」の理念のもと、穏やかな支援に努め、食事時の会話等から利用者と職員の距離が近い関係にあることが察せられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を壁に掲示し、常に目に留まるようにしている。又、職員会議等で理念を共有し、実践に繋げていけるよう努力している。	家庭的な環境と地域住民との交流のもとで「ゆっくり」「じっくり」「しっかりと」、分かり易い言葉で全職員に理念の浸透が図られている。8人の入居者それぞれの状態を把握し、ゆっくりした行動に合わせている。担当は個別にじっくり向き合っており、その人が主役として主体的に過ごせるよう支援し、しっかり支え、見守り、受け止めるケアが共有出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩等、畑での作業中に、日常的に施設の行事にご参加頂いている。	法人代表が、認知症の家族の在宅介護体験をもち、グループホームとして認知症に関わりたいとの思いで、4年前に開設した施設。町内会でその趣旨を説明した後、地域全戸に周知。町内会に入会して地域行事に参加したり、施設の「敬老会」や「クリスマス会」に地域住民を招待する等、交流を深めている。施設周辺の信用金庫や農協からも避難訓練への協力等が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解がまだまだであると感ずる。今後、行事や交流会で認知症について伝えていこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。入居者様の状態や生活状況についての報告、施設行事等の報告を行っており、そこでの意見をお聴きしている。	委員は、老人会長・区長代表・民生委員・社協・地域包括・家族代表で構成され、2か月に一度開催されている。施設長から、ホームの基本理念や、推進会議の目的が話され、委員としての役割とホームへの理解が促されている。活動報告の後、委員からそれぞれの立場での意見や質疑応答があり、施設の資質向上に活かされている。会議録には「様々な活動の後、何がわかったのか?」「次はどうするのか?」の反省点と改善策も記録されており、次回の会議に繋げる工夫が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中や、市への報告時に意見を頂いている。	運営に関しての必要事項や、情報はメールでのやり取りでもなされているが管理者は、運営推進会議録を届ける為、2か月に一度は市を訪問し、担当者と直接会っての情報交換を心がけている。推進会議のあり、社協から「徘徊SOS訓練」への協力依頼が出されていたが、町内の事業所・施設・民生委員等で構成される「見守りネットワーク」での活動に変更され、町内の一人暮らしや高齢者支援に協力している。また、市が主催する認知症についての講習会にも積極的に参加する等、連携は密にとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「玄関の鍵」も当てはまる事から定期的に介助している。より拘束防止について努力する。	市の講習会で「どんなことが拘束になるのか」を学び、職員会議のテーマとして取り上げて、身体拘束による弊害等についての認識を深めている。玄関のセンサーも常に作動させていたのを必要時だけにするとか、言葉かけも強い口調にならないように等という意識が高まりつつあることが伺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフ「虐待はしてない！！」と思っていたのだが、玄関の鍵も当てはまる事から常に定期的に解除するように見守り支援している。講習会への参加もしている。不参加者には資料配布している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、職員会議等で権利擁護に関する事を学んで意見交換もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約困難防止の為、管理者がお話しをお聴きし、施設長、管理者、スタッフで面接を行っている。入居時には、契約書、重要事項の内容を理解、納得ができていないか反応をみながら説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診時、来訪時に意見を聴き取るようにしている。スタッフも近況報告等を行ってご家族と交流している。	運営推進会議の内容は、請求書と一緒に家族に送付し、ホームの様子を知ってもらう事で意見や要望を引き出すよう努めている。家族からは「御飯の量を多く」とか「毎日散歩させて」など個人的な要望はあるが、直接運営に反映できるような意見は出されていないのが現状である。推進会議出席の家族からは、ドライブ等、必要時の協力の申し出がっており、家族との信頼関係は構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員全員で職員会議を開催している。その場を意見交換の場として自由に発言出来るように機会を設けている。	毎朝の申し送りと、月一回の定例会議の中で利用者一人一人の問題点や気になる点を出し合い、その人にとってより良いケアの在り方を話し合っている。社協主催の行事に参加した時、保育園児の踊りを見た利用者に笑顔と落ち着きが見られたことから、園児との交流を企画したり、七夕祭りの短冊に利用者が書いた願い事が、家族や子供の事が多かったことで次回は、家族への参加を呼び掛けよう等の意見が出され、職員の小さな気づきを改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。長期時間の勤務が余儀なくなされた場合、その分の休憩時間も必ず設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では、職員会議等で、外部では、研修内容の回覧により研修を受ける機会を多く作るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望に応じて他施設との交流、訪問を行っている。市内のグループホーム会議への参加、忘年会への参加を行い、他施設のスタッフとの交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面会し、コミュニケーションを図り、希望、要望、不安等をお聴きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様で入居前に面会し、希望、要望、不安等をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を行い、ご本人、御家族のご要望に沿えるように広い視点からの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員関係を築いていると思う。より一層「入居者様本意」と言う視点で関係を深めたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時又は、電話等で日頃の生活の状況をお伝えしている。又、ご家族の意見を伺ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望者には、ご自宅へお連れし、ご近所の方、同級生の方との交流に努めている。会社のバーベキュー会への参加も呼びかけている。	本人の希望で自宅に同行した折り、近所の人との交流があったり、地元の神社を訪れたり希望を受け入れた支援がなされている。孫の面会や、七・五・三参りの子供が衣装を見せに来たり等、途切れない馴染みの関係継続が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶碗洗い、米洗い、洗濯物干し、洗濯物たみを入居者様でされている。スタッフも一緒に見守りをしている。お茶の時間はお互いに会話し耳の遠い方にはスタッフが近くで説明し、孤立されないよう気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中もスタッフが交替でお見舞いに行き、関係を設けている。退所後もご家族との関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室に一人で居られる時や、入浴時に色々な話を聴き、希望等の把握に努めている。	入居前、デイサービスを利用していた人がマニキュアをして貰っていたことで、職員がピンク色のマニキュアを施し、本人の満足に繋がっている。毎日職員に、近くの店での買い物代行を頼む利用者は、ジュースや菓子類を入居者や職員にプレゼントするのが喜びであり、その思いに応えている。職員は利用者の喜ぶ顔が嬉しいとの思いがあり、「してあげるではなく、したくなる」支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後と、ご家族様、ご近所様、医師等にお話を伺っている。できるだけこれまでの生活を継続出来る様に支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今後もご本人様の有する能力を発見できるように観察力をつけるように努力したいと考えている。日常のバイタルチェック、受診時の情報交換をスタッフ間で行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成前にご本人様、ご家族様、医師、担当職員に意見、希望を尋ねており、その方に沿うように計画している。	入居時、本人、家族、医師の意見や要望を聞いた上で、本人に施設に慣れてもらう事を第一とした介護計画を作成。他施設からの入居者についてはケアマネの意見を取り入れた計画が作られている。半年に一度のモニタリングでは、担当職員を中心に家族や他職員の意見を出し合って、その人にとって一番いいと思われるケアプラン作成に力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングについての職員間の差が有るため、今後、計画の見直しに活用できる様に努めたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思い、希望に応じるように努力している。利用者本位で心地良い関係作りを今後も行う。これからも新しい発想が必要だと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩したり、菜園でのご近所様との交流、村祭り、又、地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの主治医を尊重し、入居後も受診支援を行っている。又、受診時には医師へ電話、手紙等で情報交換している。	利用者全員、入居前のかかりつけ医が主治医となっている。受診は、入居前の説明で家族付き添いとして了承を得ているが、緊急の場合は職員が同行し、病院で待ち合わせ。入居者の内、3名は二つの医院の送迎車を利用して、ホームの看護師が本人の状況、病状等を文書や電話で伝える仕組みがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日々の状態を医師へ手紙、電話で情報交換している。今後も継続していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の場合、御家族、医師との話し合い、情報交換を行っている。世間の長期休暇等、救急等の情報交換も常日頃より行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化される前に医師に相談している。夜間や緊急時に備えて紹介状の依頼もしている。個々のニーズにお答えできるように幅広い支援を心がけている。	看取りに関する明確な方針は、定められておらず、状況に応じて医師に相談する形がとられている。看取りに関する職員教育についても意識付や対応の仕方までは行われておらず、現状では家族と相談の上、病院での看取りを考えている。	入居者にとってホームは家であり、職員も馴染みの関係が深くなっていく中で、家族同様の気持ちを持って、将来的には看取りまで考慮した支援が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で理解に努めているが職員間での差がある。更に研修等で理解を深めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練、町内の津波想定避難訓練に参加している。	津波想定避難訓練と火災発生時の訓練が行われており、避難場所は津波時に2ヶ所、火災時に1ヶ所確保され、避難マップを事務室に掲示している。市が定めた年一回の「津波避難訓練の日」に地域の「自主防災組織」の協力を得、実施している。火災の場合、火元に近い人から優先的に避難させる事とし、玄関と非常口の2ヶ所から避難。夜間は、代表の自宅が近いことから素早い対応が可能であると思われる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外出時には居室に鍵をかけ安心した生活ができるようにプライバシーの確保に努めている。又、親近感もてる方言、丁寧な言葉かけに努めている。	利用者のもとの職業や、環境に配慮した声掛けや対応を心掛けている。「自分だけの空間を保っていたい」思いを尊重し、居室へのノックや外出時の鍵かけ等、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話しの中から外出、散歩、入浴などのご希望もお尋ねして支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースで一日を生活して頂き、無理の無いように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整髪等の支援、病院受診時、外出、普段着、就寝時の違いをはっきりさせている。訪問理容も利用中である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等にはお好きな物をお聴きしており、いなり、巻き寿司、ケーキ等を女性入居者様と一緒に作り、調理、配膳、片付けを行っている。常に職員は見守りをしている。	メニューは、利用者の希望が反映されて、利用者の食べたい物が優先されている。職員も一緒に同じ物を食べて、食事中も会話が弾み家庭的な雰囲気が感じられた。食が進まない人に無理強いすることも無く、ゆっくり食べられるのを待つ姿勢が見られた。エプロン掛けで下膳や食器洗いをする利用者からは、生き生きとした表情が伺えた。また、週一回のパンの移動販売車の来訪は、利用者の楽しみとなっている。誕生日会、ひな祭り等の行事食もあり、利用者が巻き寿司作りに挑戦し、作る喜びと食べる喜びを共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お好みの物をお聴きしている。又、食事、水分、摂取量の把握に努め記録している。献立は、職員で2週間毎に交替で立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後誘導を行い、必要に応じた支援、見守りをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々により排泄パターンに応じて誘導している。困難な部分のみ支援している。	ほとんどの利用者が、尿取パッド付き紙おむつを使用している。利用者の動きや気配で察知し、トイレ誘導で失敗を防ぐ配慮が見られた。おむつは面会を促す狙いもあって家族持参としている。夜間、頻尿の人にはポータブルと尿器介助での対応がなされている。衣類を下げるのが間に合わない場合もあり、職員の負担増となっているが、それを苦にすることなく、適切な対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、お茶を飲んで頂いており、ヨーグルト等の摂取に心がけている。なるべく薬に頼らず、水分等の調節で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	以前は毎日入浴されていた方でも「毎日はいらんよ、きつかもねえ。」との声もあり、現在は一日毎にしている。しかし、希望時、汚染時には入浴いただいている。	毎日入浴も可能であるが、利用者の希望で現在は一日置きとしている。運営推進委員から、男性職員の入浴介助についての質問があり、利用者への聞き取りの結果、男性職員拒否の人はおらず、スムーズな介助が出来る。風呂場は広く、中央に大きな檜造りの浴槽があり、時には職員も一緒に入浴して利用者の安心と信頼に繋げている。近所から差し入れられた菖蒲湯の楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のこれまでのスタイルを考慮し自由に休みたい場合は自室誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが食卓へ座られてから、食後に飲まれるように説明している。氏名、日付け、飲み方の確認をしている。 個々の薬の目的や、副作用についての理解は職員間での差があり今後の課題である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物に行ったり、ドライブ、野菜作り、花植え、茶碗洗い、米とぎ、洗濯物干したたみ、調理、掃除をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様のご希望により、ドライブ、散歩等を日々楽しんでいる。又、御家族交流を考え外出、外泊を勧めている。	ドライブ、外食等の外出は、一人一人の希望に添って普段は行けないような戸外へ出掛けられるよう支援する事を目的としている。近くの神社への初詣・本渡の西の窪菖蒲園・宮地岳で毎年開催されているかかし村見物・松島の足湯等外出の機会を多く持ち、利用者に喜ばれている。牛深の海岸で拾ってきたサングを居室に飾っている利用者もあり、外出は楽しみと思い出作りにもなっている。また、家族との外出・外泊にも積極的に家族への協力を求め、実現に力を入れて入ることが伺えた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力に応じて、所持されて居る方と、ご家族より依頼が有り事務所で保管している方も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話は子機にてすぐに対応している。定期的にご家族様から電話がある入居者様も居られる。御家族様から手紙は無い。ハガキが度々送付される方も居られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓には、季節の花を飾ったり、トイレには、写真、絵、工作等を張ってどこでも使い易いようにしている。ソファ、コタツ等があり、好みの場所で心地良く過ごしていただけるように支援している。	吹き抜けの高い天井には、大きな木造りの梁が組み込まれていて解放感がある。テレビの側にゆったりとしたソファが置かれ、施設長と一緒にゴルフ・相撲・野球等をテレビ観戦する等、家庭的なくつろぎの場となっている。リビングを囲む壁には、職員が釣ってきた大きな魚拓の額、絵の好きな職員が描いた絵、利用者が折り紙で作った沢山の魚たちが、群れているような配置で貼られ、温かみを感じられた。ウッドデッキのベランダには、利用者が作った干し柿が暖簾のように吊るされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、食卓、和室、掘りコタツ等で自由に生活出来るようにしている。又、テレビも3台あり好きな場所で好きな番組を見れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの出入りには許可を頂いている。居室には、家庭で愛用されていた物をお持ちいただくようお願いしている。居室を好きなようにお使いいただくように支援している。	猫が好きと言う人の部屋は、猫の小物雑貨が数多く飾られ、本人の満足感が伝わってくるような居室作りとなっている。家から持ち込みの梅干しとラッキョウを小瓶に入れて棚の上に置いている人もあり、職員は、本人の好みや思いを側面から支援し、居心地のいい部屋作りを心掛けていることが伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に札をさげ、お風呂場には效能などを書いた紙を張っている。夜間では目の不自由な方が居られるので電気を点けて対応している。又、職員一緒に日常生活が安全に送れるように支援して。		